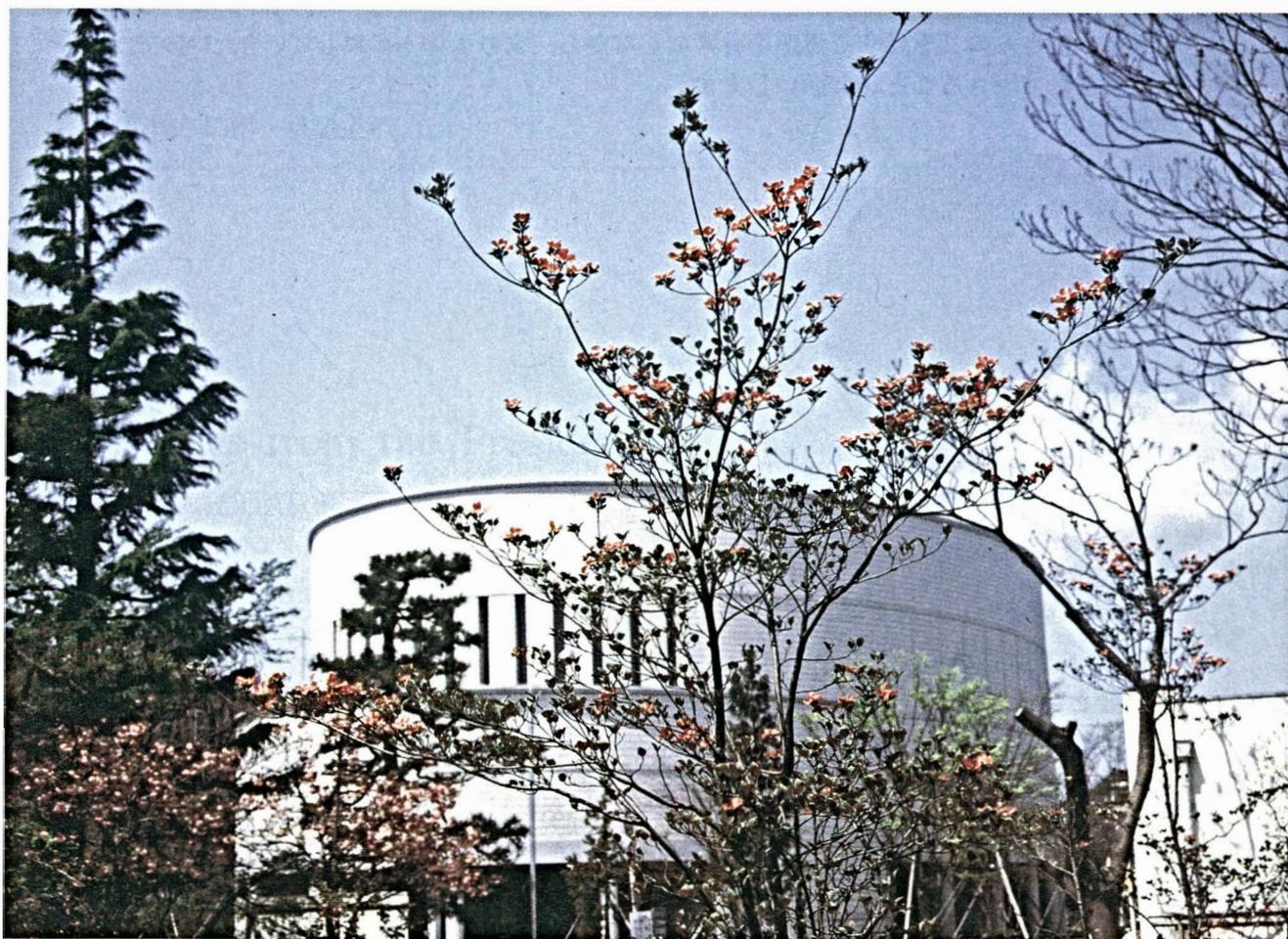


富山大学

学園ニュース



特集 ■ 「新入生歓迎」
「車社会と学生生活」

本学の「学園ニュース」も昭和45年11月に創刊号が発行されて以来、今回で第80号を送り出すことになりました。これまで、ともすると内容が堅苦しかったり、マンネリ化する傾向があったので、これを改めるべく、この機会に編集方針を一新することにしました。そのために、学園ニュース編集委員会内に作業部会を設け、特に2人の顧問を中心に検討した結果、主として次のような変更をすることになりました。

- 各号において特集を組む。
- 学生諸君が読みやすいように、内容やレイアウトなどを堅苦しくないものにするのを心掛ける。

今後、皆様のご意見やご感想を参考にしながら、よりよいものにしていきたいので、ぜひ一読して下さることをお願いします。

学生部長 増田 信彦

目 次

特集「新入生歓迎」

- 学長・卒業生からのメッセージ 1
- 先輩・在学生からのアドバイス 10

「車社会と学生生活」 14

- 富山大学における構内交通規制について 15
- 事故防止には一人ひとりが 16
- 本学学生が関係した交通事故について 17
- キャンパス交通マップ

留学生コーナー

- 雑 感 19
- 外国留学について 20
- 外国人留学生のための案内 23
- 外国人留学生受入状況 24

厚生関係の諸手続案内 25

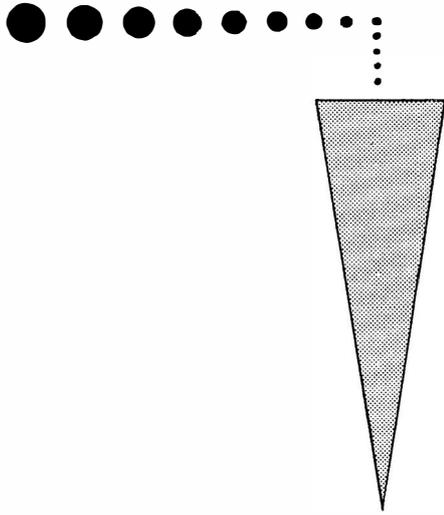
- (奨学金情報, 学割, 定期, アルバイト・家庭教師, アパート・下宿)
- (学生健康保険, 学生教育研究災害傷害保険)

学生部だより 28

- (学生証, 呼出し, 住所変更, 遺失物・拾得物, 授業料)
- (課外活動, 学生会館, 附属図書館)

保健管理センターのご案内 29

ヘルン文庫 人文学部教授 平 田 純 31



新入生歓迎

PART I

Messages from the President and graduates

What is the most important thing in student life?



学長 小 黒 千 足

1 私の仕事

三十数億年前、地球上に極く簡単な構造の生命が誕生して以来、さまざまに変化して（即ち進化して）現在までに何百万、何千万の種が現れ、そして消えてゆきました。その進化を、形態（系統分類学）と機能（比較内分泌学）の両面から探るのが私の研究でした。

昭和62年から4年間理学部長であった時は、富山大学の理学部が発展し、他の大学の理学部に比べて遜色のないようにしたいと考え、その方向にむけて努力しました。

平成3年6月から学長に就任しました。学長の

仕事は、学内の意見をまとめ、学外の各方面に理解されるようにし、また、大学の要求が受け入れられるようにすることです。学部長の時よりも更に忙しいのですが、富山大学が更に発展するため力を尽くしたいと思っております。

2 私の学生時代

私が大学生であったのは、昭和24年から28年迄で、現在とは総ての面で異なっておりました。コンパにしても酒があれば良い方で、ドブクロか焼酎が普通でした。ビールなどは高嶺の花で、安いウイスキーが出てくると大喜びしたものです。



低学年のうち、あまり勤勉な学生ではなかったようです。午後になるとよくエスケープ（授業をサボルこと）して、体育館かグラウンドで何か運動をしておりました。ただし、一方では、講義とは関係のないドイツ語の哲学書や英語の小説を、ある期間で読破することを自分に誓って、実行したこともあります。

私の出身大学では当時、希望によって学部や専攻を選ぶことができました（希望者が定員を上回れば、成績順になります）。両親は私が医者になることを望んでいたようですが（有難いことに口に出しては言われませんでした）、自分では、化学、地学または動物学のどれにするかに迷いましたが、結局動物学を選びました。実は、医者にも興味があったのですが、誰かが、医者は単なる技術者だと言ったのを聴いて（これは間違いであることは、後でわかりましたが）、研究者になりたいと思っていた私は、その道を選びませんでした。

専門では、講義よりも実験、実習に熱が入り、夜遅くまで残っていたり、徹夜に近いこともよくありました。これは私だけのことではなく、いつも何人か一緒にいたようです。

学生ながら、自分の眼と手で、教えられた以上

のことや、教科書に書いてないことを見いだすことは、本当に面白く、魅力のあることでした。

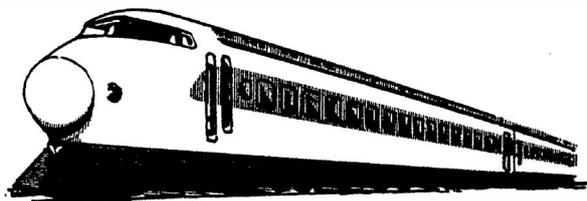
3 新入生に期待すること

この章は、原稿を依頼された時に指定されたものです。さて、諸君には何を期待すればよいのでしょうか。心構えや大学の特性は入学式にお話しました。

話しは逆になりますが、諸君は何を期待されていると思いますか。もし、期待されていることがあると思う人はその期待に応えるようにすれば良いと思います。

期待とは違うのですが、諸君に望みたいことがあります。ほかでも述べましたが、諸君は「なぜ大学に入ったのか」、「自分にとって大学とは何なのか」を、あらためて考えてほしいのです。これらの答えは、一人一人違うかもしれませんが、しかしながら、上の質問について、自分自信納得のゆく回答が得られれば良いのです。

それは他人のためではなく、己のためです。諸君が、大学生活を悔いのない、自らの歴史の一部とするために、必須のことです。



1 私の仕事

今から丁度30年前、私は材料屋として三菱電機に入社、以来殆んど一貫して絶縁材料の開発と生産、その管理を担当してきました。私が入社した2～3年後から電力会社では、電力需要の著しい増加を見込み、発・変電所の大容量化、用地取得難に合わせた機器の縮小化と信頼度の向上、送電電圧の超高圧化等を強力に実施してきました。絶縁材料を扱う者には忙しい中にも楽しく仕事ができる時期が続き、私は主にエポキシ樹脂を用いて6千Vから50万V級までの絶縁物を開発・生産してきました。このような高電圧絶縁の仕事を25年間担当の後、現在は関連会社に出向して、次世代の長距離輸送機関として期待の大きい超電導磁気浮上鉄道関係の仕事をしています。目下建設中の山梨リニア実験線での車両を浮かすための地上コイルは開発を終え生産の真っ最中です。平成7年頃には時速500kmで走行実験が見事に実行され、大きな成功を納め、皆さんの時代である200x年には第二東海道線で実用化されていることを夢見しています。

2 私の学生時代

昭和34年、現天皇陛下が御成婚された年に、工学部の長谷川教授、教育学部の竹内教授らと共に



昭和38年 工学部工業化学科卒業
菱電化成(株)マネージャー 坂井 龍吉

工学部工業化学科に入学しました。一般教養時代は富山港線の蓮町で過しましたが、時あたかも60年安保闘争華やかなりし頃、学校では反対集会にデモと騒がしい時代でした。少しは勉強しようと定期券を持ちつ下宿をしましたが、金沢まで4往復もすれば定期券の方が安いとか、学費も年間9000円と学生優遇の時代だったのでしょうか。

春や夏の休みには日給4～500円でアルバイトをして、時刻表片手に旅行を楽しんだものです。時代の差を感じますね。

さて高岡の工学部に移ってからも下宿生活を楽しましました。友の下宿先では、家族ぐるみで我々野郎共と麻雀をしたり、夜遅くまで飲み語らったり、城端・五箇山・二上山へのハイキング、筍狩りと、休みは有意義でした。もちろん平日はちゃんと勉強・実験はやったのでしょ。昭和38年1月、大豪雪に見舞われ先生以下全員で校舎前の雪除けをして、3月無事卒業を致しました。



1949年西独マインツ大学に留学中の竹内教授とアルトハイデルベルグ城を背に

3 新入生に期待すること

新入生の皆さん、ご入学お目出とうございます。しばらくはゆっくりしても、直ちに自分を取り戻して下さい。私がふと過去を振り返り今まで何をやってきたかを自問自答してみると、仕事は一生懸命にやり、喜びも多く味わってきたと思います。ただそれが本当に自分や家族にも十分に満足出来るものであったのか、疑問も残ります。忙しさの中に溺れていたようにも思います。我々の年代の多くの方は、これでも良かったのかもしれませんが、高学歴化や物質化、惑いは工業における合理化や Intelligent 化が進んだ、これからの皆さんの時代は、Life Style が多様性に富み、自由な時間も増え、個人が大切に出来るものと思います。しかしそれだけに会社生活において、自分をしっかり見つめ、表現できなければその人には弱さが残ることになると思います。このようなことを思いつつ、新入生の皆さんに期待したい事、やって欲しい事などを自分を反省しつつ書きます。

- ① 時間は無駄にしない。計画的に使おう
 社会人になってからの1年間は実に早いもの。しかも仕事となれば時間との競走。遊びもけっこう、計画的に事を選ぶ癖をつけること。
- ② 若いうち、広く知識と教養を身につけよう
 学校での基礎知識は役に立っている。仕事上の専門知識は、学生時代の知識を土台に会社で確実に得て Expert になるはず。その人の持てる教養は、極く自然に身から滲み出るもので、信頼される人となるからです。
- ③ やろうと決めた事は、最後までやり抜く事
 何事も目標半ばで止めるのは実に馬鹿らしい。何としても完成させる努力が大切です。会社では非常に重要なことです。若い内から訓練を。
- ④ 趣味を持とう
 ゆとりある生活ができるようになればなる程、自分の打ち込める趣味が如何に価値を持つものか、特に屋外でのものが役立つと思います。会社では大いに仕事を、そして Refresh には趣味を。



1 私の仕事

私の職場は、“富山で3番目の民放局”チューリップテレビです。入社の際には思ってもいなかった編成部という所に配属され、社内の縁の下の力もち的な仕事をしています。詳しく言うと、何時何分何秒からドラマの本編、次のCMは何時何分からといった放送進行データを作成したり、再放送ドラマの買いつけ等のこまかい仕事です。

富大時代は、人文学部人文学科文化人類学コースに籍を置いていました。入社の際には、祭や小さなコミュニティをメインにしたドキュメンタリー番組を作りたいという企画書が認められて採用になったと聞いています。この企画書はいまだに実現されてはいません…。

2 私の学生時代

私の学生時代といえば、はなはだ不真面目な学生でした。ただ、専門移行後、毎週木曜にある演習と、その後の夕食会がとても楽しみでした。

文化人類学コースは、私が思うところではお祭研究会と言え、初めての方にも分かりやすいと思います。私たちの時代は、高岡の伏木けんか山の研究チームから立山町^{あしくらじ}芦峯寺の地域調査へと移行していましたが、今でも伏木のけんか山の日、毎年5月15日には、当時伏木に調査に入っていた連中がそれぞれがお世話になった町内へ顔を出し、そこで私たちもまた再会し、“じゃあまた祭で”といって別れるという付き合いを続けています。



平成2年 人文学部人文学科卒
 (株)チューリップテレビ編成部 荒井久美子

“祭は世代が変わっても代々受け継がれて行き変わらない”というのが、私たちがしみじみと思い語りあっていることです。けれど私たち祭好きの間もそろそろ、結婚したりして祭に来れなくなってきた時の流れを感じてしまいます。

3 新入生に期待すること

不真面目学生の典型だった私（なにしろ授業を選び好みしたせいか4年生になっても集中講義を受けていた…。）が言うのも何やら説得力に欠けると思うのですが、そういうお題目を頂いておりますので敢えて書きますと、“同じ釜のめしを食べた仲間”というのを一人でも多くつくる。

というのはどうでしょうか？それに学問がくっついてくれば文句のない学生生活を送れるでしょう。4年間は、走り出すととても速く過ぎてしまいます。大切に使って下さい。



1 私の仕事

● これまでの略歴

私は昭和51年3月に富山大学教育学部を卒業し、同年4月に高岡市に採用され、高岡市消防吏員を拝命しました。半年間の県消防学校での研修後に高岡消防署配属。その後昭和55年から消防本部予防課主任として主に危険物規制事務に従事し、昭和60年からは消防本部総務課において企画係長、総務係長として消防施設の整備及び庶務関係の仕事を担当しました。そして平成4年からは、消防本部警防課主幹として通信指令室担当となり今日に至っております。

● 現在の仕事の内容について

私が勤務している通信指令室での仕事を簡単に説明しますと、災害発生時に消防機関に対して寄せられる119番通報を受付け、災害種類に応じて消防部隊を選択して出動指令を出し、災害の鎮圧に至るまで、消防部隊との無線交信を通して部隊活動を統制するといった業務を行っています。現在高岡市では、これら一連の指令統制業務を、コンピューターで制御する「消防緊急通信指令システム」の整備を進めており、平成5年度の本格的運用を間近に控え、私を含め13名のスタッフも、マニュアル・トレーニングや関係規定の整備など最後の調整作業に追われているところです。



昭和51年 教育学部中学校教員養成課程卒
高岡消防署警防課主幹 横田隆之

2 私の学生時代

● 入学時の思い出

私は昭和47年3月に県内の高岡高校を卒業し、同年4月に富山大学教育学部中学校教員養成課程に入学しました。大学へは自宅から通学可能であったため下宿する必要もなく、入学後も高校時代と生活環境が、格別変わることはありませんでしたが、それでも自由な雰囲気に含まれたキャンパス生活に慣れるに従い、高校時代には経験したことがない解放感に、胸躍る気持ちを味わったことを今も覚えています。

● 私にとっての大学時代

私にとっての4年間の学生生活の印象を述べるとすれば、あらゆる意味で出会いの場であったという気がします。特に学問の師でありまた人生の師である素晴らしい教官方との出会い。とりわけ印象深いのが、現在は経済学部へ移られましたが、当時教育学部で経済学を担当されていた鱒沢先生



通信指令室にて

との出会いでした。先生とは単に教室の中のみならず、御自宅へも何度かお邪魔をし、お酒を酌み交わしながら夜遅くまで人生について議論したことが、今も忘れられない楽しい思い出となっています。また大学時代に出会った友は、現在それぞれの職場において中堅として活躍していますが、今なお親交が続いており、私の人生にとって貴重な財産となっています。

3 新入生に期待すること

● 新入生の皆さんに伝えたいこと

これから始まる大学生活は、おそらく皆さんの人生で、最も自由でかつ可能性に満ちた時間となるものと思います。この素晴らしい時間が、無為に過ぎ去ることがないように願わずにはられません。そんな願いを込めて、私の大学時代を振り返ってみて思うこと、また社会人となってから感じていることなどを、いくつか記してみたいと思います。皆さんのこれからの大学生活の参考になれば幸いです。

① 専攻学科にかかわらず、法律学、経済学について勉強しておくことは、社会を見るうえで大いにプラスになると思います。社会を動かすファクターには色々ありますが、現実を強力に規定しているものは、法律、経済ではないかと思えます。皆さんが、より客観的に社会の動きを理解するために、これらの勉強を是非とも勧めます。但し単

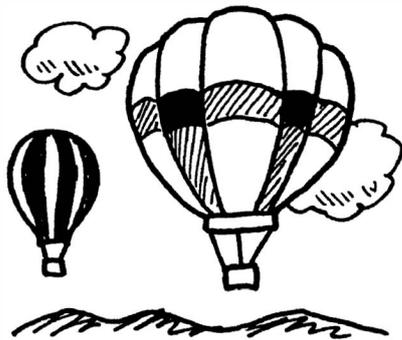
なる知識の修得に終わるのではなく、それらの理論を形成しているいわば土台の部分も、じっくり勉強することが大切であり、また興味深いと思います。

② 自由な時間をフルに使って、自己能力の開発に努めること。スポーツ、芸術、趣味、ボランティアなどジャンルを問わず、持てる才能を存分に伸ばすには大学時代が最適です。社会に出てしまうと何かと制約があり、困難が伴います。私は、何らかの特技を持つことは、人が楽しく豊かな人生を送る上で非常に大切なことであると思います。

③ 将来社会人となったときに求められるものを、学生時代に修得してしまうこと。特にパソコン処理能力と英会話能力が重要であると思います。これらは、今後仕事をこなすうえで、必須の「道具」となるのではないのでしょうか。もし私がもう一度学生生活に戻れるとしたら、是非ともやり直したいことの一つです。

④ 学生時代にできるだけ多くの友人を作ること。尊敬できる友は、自己を反省するための鏡となるとともに、自分には無い価値観に接することにより、自分という人間を大きくしてくれます。また皆さんが社会に出てからも、精神的な面で支えてくれる頼もしい存在になると思います。

最後に、これからスタートする皆さんの大学生活が、実りある素晴らしいものとなることを、心よりお祈りいたします。



1 私の仕事

「輪島上空5500 mでは、 -30°C の寒気」などとよくテレビの天気予報で耳にするが、このデータは気球に吊り下げられたラジオゾンデという測器を飛揚して得られたものである。私は茨城県つくば市にある気象庁の高層気象台でこのような観測や、地球環境問題で話題となっているオゾンの鉛直分布を測るオゾンゾンデ観測などの高層気象観測に従事している。

気象庁が監視する自然現象は、気象・地震・火山など多岐にわたる。これらの観測データを基に得られる気象情報は、日常生活のみならず、社会・経済活動に不可欠なものとなっている。そのためにも、より高品質な観測が求められている。その最前線としての気象台、測候所が全国各地にある。私も日本最北端の稚内や最南東端で珊瑚礁の孤島である南鳥島での勤務も経験してきた。転勤の苦勞もあるが、それ以上にそれぞれの土地での自然や人との出会いもあり、興味の尽きない職場となっている。



昭和57年 理学部地球科学科卒
気象庁高層気象台観測第二課 佐藤 尚志

2 私の学生時代

地球科学科が創設されて間もない二期生として入学した。専門課程の先輩がまだおらず、どのような講座でどのような研究がなされているのか、どのようなところへ就職するのか、よくわからない状態であった。地球科学教室が現在入っている理学部2号館は、まだ薬学部校舎で、設備面も含めこれから築き上げて行こうという時期でした。

東京から来た私にとって、雪を頂いた立山連峰には圧倒された。登山に素人であったが、雪山へ登ってみたいとワンダーフォーゲル部へ入部し、年間約3ヶ月は山生活となった。卒業論文のまとめで忙しい年末になっても、厳冬の剡岳へ思いを馳せ入山した。山から下りて来た下界での生活基盤は新樹寮であった。寮の仲間との夜通しのだべりや酒盛り、財布の中まで開けっぴろげの寮



気象観測中の筆者

生活を謳歌した。そのため、授業の出席率は高いとは言えず、単位取得には苦勞した。山、寮そして理学部生、これが学生時代の三本柱となった。

3 新入生に期待すること

将来を見定めて行動する

大学に入ったあとで、**たがが**緩み一種の反作用で受動的や安易に過ごす人もいる。大学時代は、おそらく人生で物心がついた後で一番自由が与えられていて、自分の思うままに生活設計が出来る時期である。自分にとって得意な分野、好きな分野、必要な分野は何なのか見定め、能動的に自分を鍛えていく時期に使うべきである。

専門分野の基礎力を蓄えたり、読書に励んだり、語学を身に付けたり、旅に出たりいろいろある。たとえ、人から見れば遠回りに見えることもあるかもしれないが、自分なりの積極的な方法を持てればと思う。

自然と親しむ

山から得たものは、私の貴重な財産になっている。風、雨、雪と厳しい気象条件の中で、行動の

判断を下さなければならない。これは肉体的、精神的にこたえる。しかし、この経験を重ねることによって、厳しい環境自体を楽しんでいこうという気持ちが強くなってきた。これが心のゆとりとなって、山のみならず様々な環境や局面での順応性や対処方法に生かされてきた。

自然とのかかわりをなかなか持てない日常生活においても、たまには城山や呉羽山へ登って、のんびり立山連峰を眺めてみるのもよい。何かしらめくかもしれない。

人との出会いを大切に

重い荷を背負い、深い雪をラッセルしながらのルート探し、雪洞を掘って泊り、吹雪が治まるまで、二、三日その中でじっと耐える。こんなことを共にした仲間とは、今も親友である。寮では、恋愛から社会問題まで幅広く議論した仲間には、自分の気付かなかったことや批判する眼を持つことを教えてもらった。また、山とアルバイトで研究室にあまり顔を出さなかった私をご指導してくれた恩師。様々な出会いがあった。これらが今の自分を作っている。これを大切にしたい。

PART II

Students' advice to freshmen

How do you enjoy student life?



経済学部経営学科4年 谷口 穂子
(執筆時)

2つのキーワード

新入生の皆さん、御入学、おめでとうございます。これから、私が学生生活を通して感じたことを書いてみようと思います。

●部・サークルに入りましょう

高校生までとは違い、大学ではクラスの結びつきが弱くなりがちです。その上、授業が終わってすぐ帰宅というのでは、何とも寂しいではありませんか。

私の場合、4月の中頃までは、大学に慣れるのに必死であったという間でしたが、慣れてくると、「大学ってこんなものか、なんかおもしろくないなあ」という気持ちが生まれてきました。これではいけないと、中学校の時から吹奏楽をやっていたこともあり、フィルハーモニー管弦楽団に入りました。100人を越す団員で、初めは圧倒されましたが、様々な個性をもった人達とふれ合い、音楽を作っていくことに、とても充実感を覚えまし

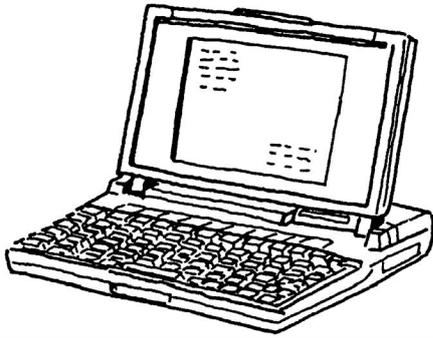
た。勿論、学業も大切ですが、自分に合った部・サークルに入ることによって学業では得られない貴重な何かを得られるはずですよ。

●自分の考え・気持ちを相手に適確に伝えよう

簡単なようで非常に難しく、必要なことです。日頃、友達と交わしている会話では誤解があったとしてもなんとか切り抜けられるかもしれませんが、しかし、重要な場面でのごまかしはできません。

私の経験から言うと、就職先の面接で、頭の中で考えたつもりだったのに、それをうまく表現できず苦労しました。皆さんに身近な事では、アルバイトの面接があると思います。語彙力の問題もあるかもしれませんが、要は表現力です。これから出会う新しい友達、先生を通して皆さんの表現力を磨いていって下さい。

拙い文ではありましたが、少しでも皆さんのお役に立てたらと思います。



工学部工業化学科4年 ^{ほり} ^い ^{かず} ^{ひろ}
堀井 一 宏
(執筆時)

熱中できる何かを

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。長い受験戦争が終わりやっと訪れた「春」と言ったところでしょうか？

アドバイスと言っても、そんな偉そうな事を言えるほどしっかりとした生活を送ってきたわけではないのでちょっと恐縮です。まあ、大学の4年間を送った感想として書いてみました。

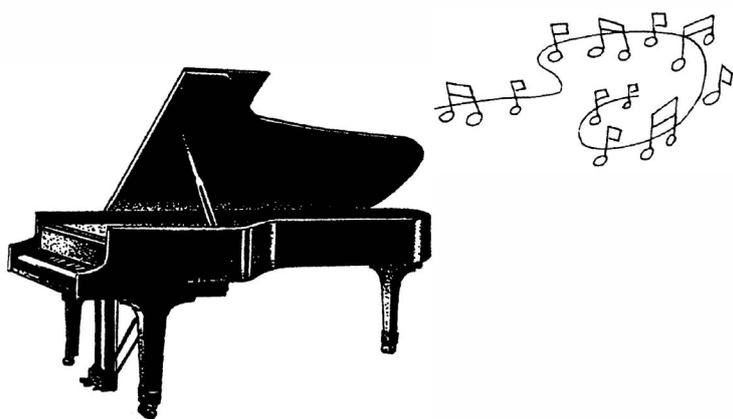
● 新入生へ望む事

みなさんはどうして大学に来たいと思いましたか。どうしてその学部学科を選びましたか。それぞれ考え方があるとは思うのですが、とりあえず自分の成績なら入れそうだとか、高校の先生に進められたとか、そんな考えで来たのでしょうか。そうすると、ただ卒業して、就職するために卒業証書を1枚もらえればいいのでしょうか。そんな考え方の人たちばかりが来ているとは思いたくはありませんが、現実の4年間でそう言った面を多く見せられて来たというのが実感です。そんな気

持ちで送る4年間は楽しいでしょうか。何も、かしまって、堅苦しく、毎日、毎日、勉強ばかりしろと言うつもりはありません。僕は、2浪して大学へ入りましたが、浪人中は、回りのみんながもっとパワーがあったような気がします。何をやるにも、もっと熱くなれてたような気がします。でも、大学に入ってみると何か違ってきます。みんなずいぶんおとなしい。何をやってもいいのですが、熱く一生懸命になれる人が少ないなと感じます。

ずいぶんと、きついことを書きましたが、僕もこんな生活をしてきたわけでもなく、これは自分自信への批判のつもりでもあります。僕ももっと熱くいたかったなと。

新入生のみなさん、大学を卒業すると、こんなにまとまった時間のとれる事はもう無いと思います。この時期にしかできないようなことを、思う存分充実した時間を過ごしてください。



サークル活動はプラスになる

サークル活動はプラスになる。

私はそう思っています。もちろん、私の経験論ですが。

私は今春四年生になります。三年間大学生活を送ってきて思うことは、何かをしてもしなくても同じだけある時間を、何かをした人もしなかった人も同じだけ過ごす、ということです。つまり、同じ時間を同じだけ過ごしても同じではない、ということです。随分、当り前のことを、と思うかも知れませんが、高校時代、俗に言う「帰宅部」だった私は、今さらながらに思うのです。

さて、少し具体的な話をしたいと思います。私は、現在合唱団に所属しています。真剣に取り組めることがある、楽しく話せる友達がいる、合唱団は私にとってそういう場です。私はここで、ひ



理学部化学科3年 しん ぎ 新谷 崩 子
(執筆時) (合唱団)

とつの団体が活動するには、みんながそれぞれの役割をきちんと果さなければならないことを学びました。そして、先輩、後輩との関わりあい。やっぱりいろんな人と話すことは、自分と違ういろんな人を知ることにつながるのでおもしろいし、自分の視野が広がったと思います。そしてなにより、いつか学生生活をふりかえるとき思い出すであろうことを合唱団で出会った人達たちとできたことがうれしいです。

私にとってはサークルだったが、自分のやりたいことをすればきっと自分のプラスになると思います。いろんな手段があって当然だけど、ただ、サークルは団体という点でもうひとつプラス点を加えてくれると思います。

みなさんよりちょっとだけ先に大学生活を送っているひとりとして、またサークル活動に取り組んでいるひとりとして、今が一番、なんでもできる時だ、ということを感じておいてほしいです。



部活動にはそれほどまでの魅力がある

私にとって部活動は学生生活のすべて、いや青春のすべてといっても過言ではありません。夏は陸上部に冬はスキー部に所属し、大会に向かって練習に励みました。部活動にはそれほどまでの魅力があったのです。

競技そのものの楽しさや、記録が伸びていくこと、試合で勝つことも魅力のひとつですが、どの体育会系の部でも共通していえることは、目標に向かって泣いたり笑ったりしながら努力している仲間ができることです。「人は人と人の中で人間となる。」人間という字をもじったこんな言葉を聞いたことがあります。部活動を通してできた仲間から多くのものを学びました。楽しいことばかりではなく、時にはけんかも、苦しいことも

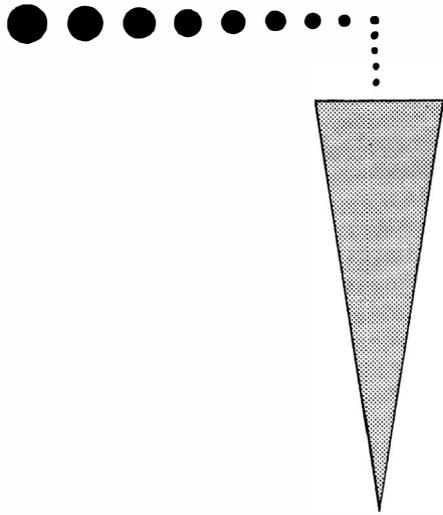


教育学部中学校教員養成課程4年 ^{やま} ^{ざき} ^{ひろし}
山崎 洋
(執筆時) (陸上・スキー部)

あります。しかし苦しみが大きいほど仲間との結びつきは強くなり、目標を達成したときの喜びもより大きいものとなりました。また高校生の時とは違い、練習計画や、合宿や、大会参加などは、すべて自分たちで計画し、運営していきます。このような活動を通して、授業では学べないことを非常に多く経験し、学ぶことができました。

大学の部は、自分達ですべてを運営するため高校の時の雰囲気とは大きく違います。本当にスポーツを愛する者が集まり、同じチームメイトとして、時にはライバルとして目標に向かって努力しています。

4年間をおもしろおかしく過ごすのもいいかもしれませんが、スポーツを通して大勢の仲間たちと共に汗や涙を流し、笑ったり喜んだりできる体育系の部で、有意義な学生生活を送ってみませんか。



車社会と 学生生活



最近、若者が起こす交通事故発生率が高まっています。車は生活には大変便利ですが、運転の仕方によっては大きな悲劇を生む凶器にも早変わりします。

学園ニュースでは、学生諸君にこの問題を真剣に考えてもらいたいとの思いから、今回「車社会と学生生活」という特集を組んでみました。

特に、これまで大学構内をスピードを出して走り抜ける車や違法駐車が続かず、学内での事故も多発し、静かな学園生活が乱されて来ました。これを改善するために、平成2年4月1日から現在の構内交通規制が実施されることになりました。車と、教育研究にふさわしい静かな学園の調和を図るために、構内交通規制を順守されるように希望します。

富山大学における構内交通規制について

構内交通対策委員会委員長 **まつ うぶ いっ ちや**
(理学部教授) **松 浦 郁 也**

富山大学においては、構内における歩行者の安全及び教育研究の場としてふさわしい環境を保持するため「富山大学五福地区構内交通規制に関する実施要項」及び「同実施細目」を定め、平成2年4月1日より構内交通規制を実施しております。

殆どの大学においても、このように原則として自動車による学生の通学を禁止する構内交通規制を実施しておりますが、本学においても、このような入構の制限等構内交通規制を実施するのは、交通事故が原因で経済的、精神的苦痛に耐え切れず学業なかばで去る学生もいること、そして駐車場が少ないこと、また騒音の防止など大学としてふさわしい環境を保持するためであります。

この要項等は、五福地区構内に自動車、自動二輪車、原動機付自転車及び自転車で入構する職員又は学生等の責務を明確にした、いわば倫理規定

であり、学生諸君等の一人一人のモラルによって成り立つものであります。

この要項に定める交通規制の概要は下記のとおりであります。

しかし、残念ながら、この交通規制のルールは、現在必らずしも十分に守られていない状況にあり、その対策に苦慮しております。また、入構許可のない自動車で通学する学生等が、五福公園駐車場又は富山商業高校前の路上等に駐車するため、通行の障害を招いており（キャンパス交通マップ赤紫色の部分参照）危険であるだけでなく、多数の市民から苦情が寄せられております。

構内交通対策委員会は学生諸君のモラルに期待し、良識ある行動を強く望むものであります。

お互いにルールを守り、快適な環境で、楽しい学園生活を送りましょう。

《概 要》

1 自動車が入構できる学生

原則として自動車による通学は、禁止しておりますが、次の要件に該当し、一般入構許可書の交付を受けている学生

- ・身体障害疾病等により自動車によらなければ通学が困難な者
- ・学部4年生又は大学院生で、実験・研究のため必要であると指導教官が認めた学生で、かつ、通学距離が2キロメートル以上の者
- ・経済学部夜間主コースの学生で、自動車によらなければ通学が著しく困難な者

なお、やむを得ない特別の事由により、臨時又は当日入構するためには、臨時入構許可証等の交付を受け入構することができます。

2 入構許可申請の提出先

- ・各学部の学務係。ただし、経済学部においては、学生係

3 遵守事項

- ・入構しようとする自動車は、各門において必

ず一旦停止し、入構許可証の確認を受け入構すること。

- ・構内を通行する車両の速度は、20キロメートル以下とし、交通安全及び騒音防止に努めること。
- ・入構を許可された自動車は、駐車場以外に駐車してはならないこと。

ただし、駐車場が満車の時は、駐車可能区域と表示してある箇所に駐車することができます。

- ・自動二輪車及び原動機付自転車は、入構地点から最寄りの専用駐車場に駐車すること。
- ・自転車は、定められた自転車置場に置くこと。
- ・入構許可証は、駐車する際には、運転席前面の位置で外部から識別できるように表示すること。

4 その他

- ・メインストリート等の構内道路及び各部局の玄関前は、原則として駐停車禁止区域となっております。

事故防止には一人ひとりが

(財)富山県交通安全協会 常務理事 松 著 高 著

平成4年に富山県内で発生した交通事故は全部で25,271件に達しました。そのうち人身事故は7,303件で、平成3年と比較すると556件増(8.2%増)となり、史上最悪を記録しました。このような厳しい状況をとらえ、第二次交通戦争と表現するむきもあります。

そこには、大量交通時代の中にあって、交通渋滞の日常化や割り込み運転の増加等、無意識のうちにイライラが増し、そのことが危ない運転を招いているという背景がありましょう。しかし、昨今の交通事故の特徴として、若者の暴走運転事故、高齢者被害事故、夜間事故等が多発していることに気付かされます。しかも、これらの事故には若者ドライバーが共通して関係しているのです。そして、これについては、若者の運転が、自己中心的な興味本位のスピード志向、運転技能の過信、交通環境軽視等のからみあった、無理で乱暴な運転となっているためであるとの指摘がなされています。

ではどうするか。今や交通事故防止の方策についてはいい尽くされた観がありますし、ここで具体的な注意事項をこと細かに述べるつもりはありません。交通事故防止という仕事に携わっている者として、若いドライバーの(あるいは、いずれドライバーになる)皆さんに次の三つのことをお

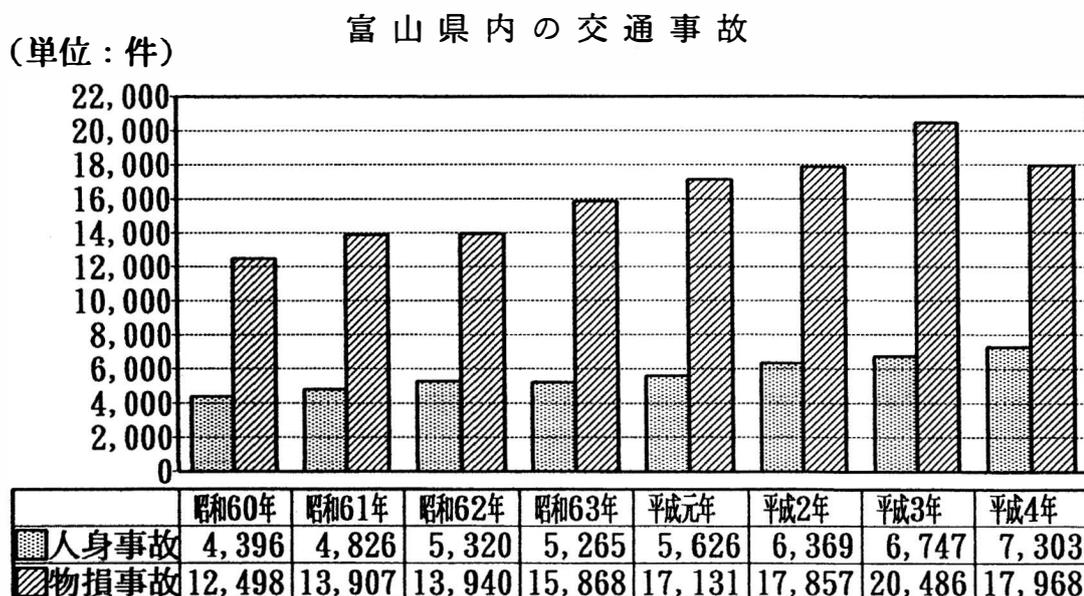
願いし、また強調しておくにとどめたいと思います。

第一に、運転は手足で行なうものではなく、心で行なうものだということです。人と人が接するときに大切な「思いやりの気持ち」を運転の場でもぜひ発揮して下さい。そして、他の道路利用者に「先をゆずるゆとり」をも持ってほしいのです。

第二に、人間は錯覚をしやすく、また自分の関心事だけに目を向けやすいという「弱さ」を持っています。従って、車の運転に当たっては、人間のこのような弱点を理解した上で、自分を過信することなく、十分な注意を払うことが必要です。

第三に、交通事故は、事故を引き起こした本人の生命や健康を失わせるだけでなく、他人の人生や幸福を一瞬にして奪ってしまいます。この文章はおそらく学生の方に読まれるのでしょうか、学生といえどもハンドルを握った以上は、ぜひ、「他人に迷惑をかけない」という強い社会的自覚を持って運転してほしいものです。興味本位のスピード志向等の安易な姿勢が、取り返しのつかない結果を招くことを銘記すべきでしょう。

私は、事故を防ぐためには、結局、一人ひとりが上に述べたようなことを再認識することが何よりも大切である、と申し上げたいのです。



(件数は、平成4年11月現在で富山県交通安全協会調べによる)

本学学生が関係した交通事故について

学園ニュース編集委員会

このたび、各学部の学務・学生係のご協力により、本学学生が関係した交通事故についての、最近のおおよその状況を知ることができました。以下にその一部を紹介し、簡単なコメントを行なって、「車社会と学生生活」という特集をしめくくることにします。

なお、あらかじめ二つの点をお断わりしておきます。第一に、この報告の対象は、過去4年度（平成元年度～平成4年度）に生じた事故に限られるということ（集計時は本年3月中旬）。第二に、具体的数字等を含め以下に紹介する内容は、「各学部の学務・学生係が把握した事故」に限定されるということです（なお、人文学部からは、知るかぎりでは上記期間中の学生の交通事故はない、との報告が寄せられております）。とはいえ、若干の把握漏れはあるでしょうが（例えば、軽度の物損事故など）、無視しえないような事故はほぼ網羅されていると思われまので、下記の内容は実態をかなり表わしているといえましよう。

さて、まず《表1》からは、本学学生諸君の関係する事故は毎年20件前後発生しており、特に学外でのそのが多いことに気づきます。しかし、構内交通規制にもかかわらず、学内事故も相変わらず起きております。ただ、幸いにも、最近では、それら学内事故の被害程度は比較的小さいようです。

《表1》

富大生の関係する事故発生件数

（数は、事故の件数を表す）

| 事故の場所 年 度 | 学 内 | 学 外 | 計 |
|--------------|-----|-----|----|
| 平成元年度 | 10 | 14 | 24 |
| 平成2年度 | 3 | 11 | 14 |
| 平成3年度 | 5 | 9 | 14 |
| 平成4年度 | 6 | 14 | 20 |
| 計 | 24 | 48 | 72 |

次に、交通事故には、本学学生が加害者（とりあえずここでは、損害発生について主として過失

のある者をいう）となる場合（なお、相手方に同程度の過失がある場合や、相手方が本学学生である場合も便宜上ここに含めた）、被害者（損害発生についてあまり過失のない者をこう呼ぶことにする）となる場合、自損の場合（ここでは自分の損害だけで済み、他人に損害を与えない場合を指す）とありますが、《表2》によれば、学生が加害者側であるケースが相当多いことに改めて驚かされます。残念な事実として受けとめざるをえません。

《表2》

加害者側・被害者側等の別

（数は、事故の件数を表す）

| 加・被の別 年 度 | 加 害 者 | 被 害 者 | 自 損 | 計 |
|--------------|-------|-------|-----|----|
| 平成元年度 | 16 | 5 | 3 | 24 |
| 平成2年度 | 7 | 2 | 5 | 14 |
| 平成3年度 | 6 | 3 | 5 | 14 |
| 平成4年度 | 13 | 5 | 2 | 20 |
| 計 | 42 | 15 | 15 | 72 |

なお、細かな数字は示しませんが、参考までに、事故発生原因についても一言しておきましょう。事故原因にも様々なものがありますが、各学部からの資料によれば、運転者の前方不注意とスピードの出し過ぎという二つの原因がとりわけて目立っております。

続いて、具体的な損害の状況をみてみましょう。これについては《表3》を掲げておきます。これは、①本学学生が加害者の場合の相手方の損害、②同じく被害者の場合の学生側の損害、さらに③自損の場合の損害というふうに便宜的に区分して（加害者、被害者、自損の各場合の意味は上と同じ）、各々の概況をまとめたものです。一見してわかるように、各場合における重傷者・死亡者の数は決して少ない数字ではありません。特に、この点に関し、①の場合の最近の実例を挙げておきたいと思ひます。それは、信号のない交差点で、学生運転の車が、わき見とスピードオーバーによ

《表3》

損 害 の 状 況

(数は、事故の人数を表す)

| 損害の程度 年 度 | 学生が加害者の場合の相手の被害 | | | | | | 学生が被害者の場合の学生の被害 | | | | | | 自損の場合の損害 | | | | | | 合計 |
|--------------|-----------------|----|----|----|----|----|-----------------|----|----|----|----|----|----------|----|----|----|----|----|----|
| | 物損 | 軽傷 | 骨折 | 重傷 | 死亡 | 計 | 物損 | 軽傷 | 骨折 | 重傷 | 死亡 | 計 | 物損 | 軽傷 | 骨折 | 重傷 | 死亡 | 計 | |
| 平成元年度 | 5 | 5 | 2 | 3 | 1 | 16 | 0 | 0 | 2 | 3 | 1 | 6 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 3 | 25 |
| 平成2年度 | 2 | 1 | 0 | 2 | 2 | 7 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 | 3 | 1 | 2 | 1 | 0 | 1 | 5 | 15 |
| 平成3年度 | 1 | 2 | 0 | 2 | 1 | 6 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 | 3 | 1 | 2 | 0 | 2 | 0 | 5 | 14 |
| 平成4年度 | 7 | 4 | 0 | 2 | 0 | 13 | 0 | 1 | 0 | 2 | 3 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 21 |
| 計 | 15 | 12 | 2 | 9 | 4 | 42 | 0 | 5 | 2 | 5 | 6 | 18 | 2 | 5 | 2 | 3 | 3 | 15 | 75 |

(注：重傷とは1カ月以上の入院の場合、骨折とは1カ月以内の入院・通院の場合を示す)

《表4》

事 故 の 状 況

(数は、事故の件数を表す)

| | オートバイと車 | 車と車 | 自転車と車 | 人と車 | オートバイと人 | 自 損 | 同乗による被害 | 計 |
|-------|---------|-----|-------|-----|---------|-----|---------|----|
| 平成元年度 | 11 | 4 | 3 | 2 | 3 | 1 | 0 | 24 |
| 平成2年度 | 3 | 2 | 2 | 4 | 3 | 0 | 0 | 14 |
| 平成3年度 | 5 | 0 | 2 | 4 | 0 | 2 | 1 | 14 |
| 平成4年度 | 5 | 8 | 3 | 2 | 1 | 0 | 1 | 20 |
| 計 | 24 | 14 | 10 | 10 | 7 | 3 | 2 | 72 |

てバイク運転者をはね、相手方が失血により死亡した事故(理学部・平成3年8月)や、本学学生間の接触事故のケースですが、自動車の前方不確認により、オートバイに乗っていた学生が頸椎損傷等で三か月の重傷を負った事例(教養部・平成4年7月)などです。それぞれ悲惨なケースといふべきでしょう。

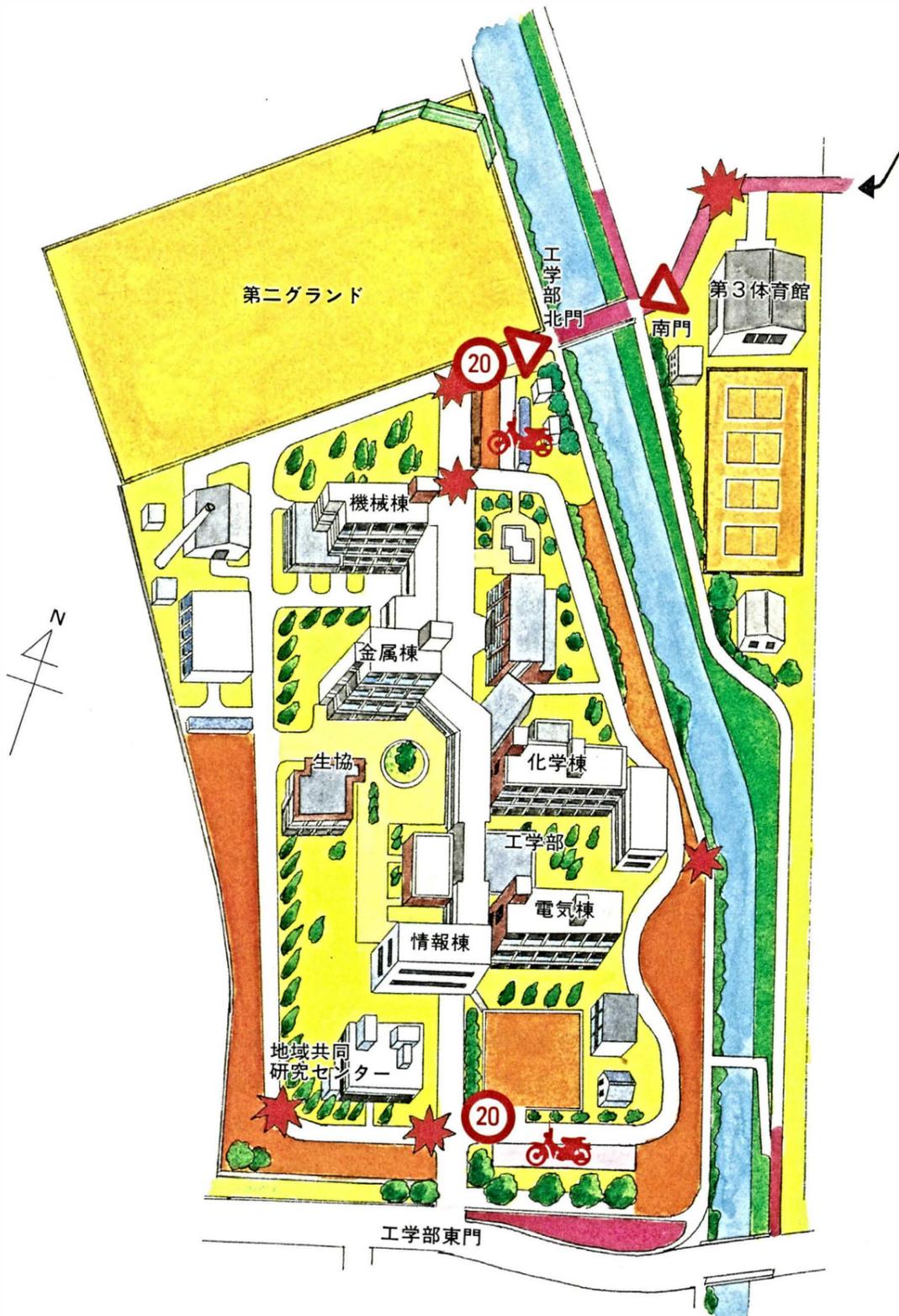
最後に、《表4》は事故の状況、なかでも各当事者の態様について整理したものです。上に紹介した具体的事例にも出てきましたが、オートバイ

や自転車等の二輪車と自動車との接触によって引き起こされる事故が、件数全体の半分近くに達していることが読みとれます。

以上、本学学生の関係する、近年の交通事故の状況について簡単にふれてみました。きわめて不十分な報告・コメントですが、交通事故防止に間接的にでも役立てば幸いです。

(本文執筆：編集委員 長谷川 隆)
(資料の分類・整理： 学生部)

キャンパス交通マップ



-  事故多発地帯
-  一時停止
-  駐車場
-  バイク用駐輪場 (キャンパス内を移動するときはエンジンを切って押して歩きましょう。)
-  制限速度 (構内全域)
-  迷惑駐車地帯

雑 感

工学部留学生専門教育教官 舟 保 豊 和
講 師

富山大学が積極的に留学生を迎えて何年になるだろうか。わたしの所属する学科では平成2年に学部卒業生と修士課程修了者を出しており、これより、少なくとも7年以上経過していると思われる。当初は珍しいくらいに少なかった留学生も最近はかなり数字にのぼってきており、キャンパス内でよく見かけるようになった。しかも、学部留学生だけではなく、修士留学生や研究員も増えた。その一方で、留学生の増加と共に大学側の受入れ体制も徐々に整ってきている。そんな中、いま在学している留学生は幸せだと私には思われる。

まず、第一に日本に留学できたことである。本人の能力が認められたことと共に運があったからである。第二に、富山の地で生活できることである。都会の雑踏とは異なり、富山には人間の生活がある。そして、良しにつけ悪しきにつけ、人の心に感動を与える自然と四季がある。第三に、富山県も国際交流をスローガンにしており、留学生に対する待遇の良いことが上げられる。第四に、富山大学も留学生の受入れ体制を確実に充実しようとしていることである。

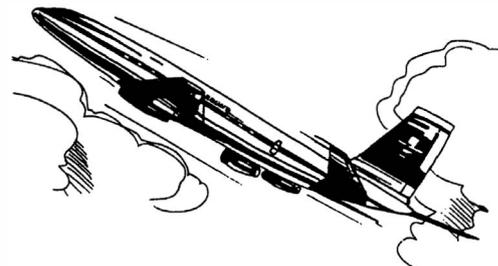
私は、彼らが得たチャンスを有意義なものにしてもらいたいと願っている。そして、積極的にこのチャンスを生かして、いかに自分のものにするかを考えて欲しいと思っている。人生には落とし穴がたくさんある。それは日本で生活していても

母国で生活していても同じである。彼らに忘れて欲しくないのは、日本へ留学することが目的ではないということである。人生にとって非常に短い留学期間、しかも残りの人生を決めてしまう留学期間に何を手にいれるかが重要である。

今、在学している留学生は多くの問題を抱えていると思われる。そして、日本人学生も多感な時期でもあり悪戦苦闘している。青春時代は問題を探してきてでも悩む年頃である。私は青春時代には大いに悩んでもらいたいと思っている。悩む青春には国籍は存在しないのである。そして、すべての学生が一日でも早く悩みを乗り越える方法を体得することを期待している。

最後に、青春を謳歌している学生諸君に言いたい。目の前のコンクリート製に見える扉は誰も開けてくれないのである。それが開かずの扉なのか、鍵のかかっていない扉なのかわからない。他の人には見えない扉かも知れないし、同じ扉の前に何人も立っているかもしれない。だから、まず、周りを見て同じ仲間を捜し一緒に扉をノックする。すると必ず応答がある。コンコンという音かも知れないし、ドンドンかも知れない。もしかしたら、音が返ってこないかも知れない。でもそれらすべてが答えであり、一步踏み出し次の扉へと向かうのである。次の扉の向こうに足音が聞こえるかも知れない。 ………

外国留学について



海外留学希望者へ

大学生等の海外留学や海外学習旅行が増加するにつれて、安易な気持ちで留学する学生や留学先でのホストファミリーとのトラブル、業者の契約不履行など、さまざまな問題が生じており、文部省が平成3年5月に発表した海外留学実態調査によれば海外留学した大学生等の4人のうち1人が何らかのトラブルを経験したと回答しています。

これらのことから、留学予定者等が事前に留意すべき事項（チェックリスト）として、次のようなものがあります。

1. 留学等に当たっての留意事項

- (1) 明確な目的意識を持つとともに渡航先の文化・社会事情に関する十分な学習をし、理解を深めること。特に生活習慣の違いについて認識しておくこと。
- (2) 日本の歴史・文化等を十分に理解し、これを相手に伝えるなど、主体的に行動し、人と人との相互交流に努めることが大切であることを認識しておくこと。
- (3) 最低限必要な語学力を身に付けるよう学習すること。
- (4) その他渡航前の心構え等について留学等希望者が在籍する学校と相談し指導をうけるとともに、過去の参加者からの意見聴取等を通じて必要な助言を得ること。

2. 渡航前の留意事項

- (1) 渡航先の学校の概要・教育課程・周辺地域の環境等の情報、ホストファミリーの名前・住所・電話番号・家族構成・家族の自己紹介等の情報を入手し、十分準備しておくこと。
- (2) 病気・事故に備えた適切な保険に加入するとともに、渡航先で緊急事態が発生した際の心構えや対応について十分準備しておくこと。
- (3) 事業実施の主体が提供するオリエンテーションには必ず参加すること。

3. プログラムの選択等に関する留意事項

- (1) 事業実施の主体が、組織、事業目的、実績等の面で信頼できるものであるか。また、渡航先国における提携受け入れ団体について必要な情報提供が十分にあり、信頼性のチェックができるものであるか。
- (2) プログラム参加希望者やその保護者に対し、渡航先の文化・社会事情、学校の情報（使用言語、教育内容、留学生指導体制）、ホームステイ等滞在施設の情報（ホストファミリー決定の手続き、ホストファミリーの状況、通学先からの距離等）周辺地域の環境、渡航先における援助・相談体制について十分なオリエンテーションがあり、その後も緊密な情報提供が受けられる仕組みになっているか。
- (3) 留学費用に含まれる経費の詳細が明確に示

されているか。

- (4) 事故発生の場合の責任の所在，負うべき責任の範囲，問題解決の方法，申し込みの取り消しに関する事項等が契約書等により明確にされ，かつその内容が合理的であるか。
- (5) プログラムの趣旨・目的に応じた語学力・適応能力をチェックするため，参加希望者に対する面接及び書類による審査が行われているか。
- (6) プログラムの趣旨・目的に沿い，かつ学校への通学距離やプログラム参加希望者との条件等の適合性に十分配慮したホストファミリーの選考がなされているか。
- (7) 渡航先において学校，提携受け入れ団体，地域等が円滑な関係を保っており，十分カウンセリング，支援体制及びその責任体制が確保されているか。
- (8) 困ったことや問題が生じた場合にこれらを円滑に解決するための援助・相談体制が整備されており，かつ，これに関連したガイドブック・会話集等が用意されているか。
- (9) 留学期間中に発生する可能性のある病気・事故等に備え，適切な保険に入るための配慮がされているか。

4. その他のチェック事項

- (1) 渡航前に受け入れ大学等の入学許可又は受け入れ団体による証明が得られているか。渡航前にホストファミリーが決まっており，手紙の交換等により相互理解促進のための手立が確保されているか。
- (2) 募集のパンフレット等による事前の説明と異なっていないか。異なっている場合は十分な説明があるか。

5. 学生の国際交流

(1) 学生の海外留学

国際化の進展するなか，本学でも学生の外国留学が増えつつあります。本学の学則には，「外国の大学（短期大学を含む）に留学しようとする者は，その理由を付して当該学部長を経て，学長の許可を受けなければならない。また，許可を受けて留学した期間は，在学期間に含めることができる」こととなっています。

参考までに，日本政府の奨学金による留学には次のものがあります。

《日本政府（文部省）の奨学金による留学》

◎ 教員養成大学・学部学生海外派遣制度

この制度は，国立の教員養成大学・学部の学生を対象として，国費をもって諸外国に留学させることにより，国際的視野を持ち，広い識見を身につけた教員の養成を図ることを目的として設けられたものです。（表1）

◎ 学生国際交流制度

この制度は，国立大学が，外国の大学との間の国際交流計画に基づき，相互に学生を交換する場合に，当該国立大学から派遣される学生に対して国が奨学金及び旅費を支給し，もって我が国の学生がひろく諸外国の学生とともに勉学する機会を拡大するとともに，大学間の国際交流の促進を図ることを目的としています。本学では，本制度を利用できるよう現在，開拓中であります。（表2）

留学生コーナー

(表1)

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|--|-----------|-----------|-----|-----------|-------|----------|-------|----------|---------|----------|-----------|----------|-----------|----------|--|--|
| 資 格 | <p>国立の教員養成大学・学部の教員養成課程の原則として第3年次に在籍する者で、次のすべてに該当する者</p> <p>1) 学業成績が優秀で、心身ともに健全な者</p> <p>2) 卒業後、小・中学校等の教員となる者</p> <p>3) 留学先の大学において、教育を受けるのに十分な語学力を有する者</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 派遣人数 | 1～2名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 派遣地域 | アジア, 中近東, アフリカ, オセアニア, 北米, 中南米, ヨーロッパ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 期 間 | 原則として大学入学前約1カ月の現地におけるオリエンテーションの期間を含め11カ月以内 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 奨 学 金 額 月 額 | <table> <tr> <td>ア ジ ア</td> <td>50,000 円</td> <td>北 米</td> <td>135,000 円</td> </tr> <tr> <td>中 近 東</td> <td>55,000 円</td> <td>中 南 米</td> <td>55,000 円</td> </tr> <tr> <td>ア フ リ カ</td> <td>70,000 円</td> <td>ヨ ー ロ ッ パ</td> <td>80,000 円</td> </tr> <tr> <td>オ セ ア ニ ア</td> <td>80,000 円</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> | ア ジ ア | 50,000 円 | 北 米 | 135,000 円 | 中 近 東 | 55,000 円 | 中 南 米 | 55,000 円 | ア フ リ カ | 70,000 円 | ヨ ー ロ ッ パ | 80,000 円 | オ セ ア ニ ア | 80,000 円 | | |
| ア ジ ア | 50,000 円 | 北 米 | 135,000 円 | | | | | | | | | | | | | | |
| 中 近 東 | 55,000 円 | 中 南 米 | 55,000 円 | | | | | | | | | | | | | | |
| ア フ リ カ | 70,000 円 | ヨ ー ロ ッ パ | 80,000 円 | | | | | | | | | | | | | | |
| オ セ ア ニ ア | 80,000 円 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 渡 航 旅 費 | 新東京国際空港と留学先の大学の最寄りの国際空港との間の往復下級航空旅費 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 募 集 時 期 | 1月 | | | | | | | | | | | | | | | | |

(注) 本学教育学部においては、毎年ドイツ連邦共和国（ルードヴィヒスブルク教育大学）へ1名を派遣しています。

(表2)

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|---|-----------|-----------|-----|-----------|-------|----------|-------|---------|---------|----------|-----------|----------|-----------|----------|--|--|
| 資 格 | <p>1) 学部の学生で第3年次以上に在学している者</p> <p>2) 大学院の学生で、原則として修士課程に在学している者</p> <p>3) その他前号に準ずる者</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 派遣人数 | 1名 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 派遣地域 | アジア, 中近東, アフリカ, オセアニア, 北米, 中南米, ヨーロッパ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 期 間 | 原則として大学入学前約1カ月の現地におけるオリエンテーションの期間を含め11カ月以内 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 奨 学 金 額 月 額 | <table> <tr> <td>ア ジ ア</td> <td>50,000 円</td> <td>北 米</td> <td>135,000 円</td> </tr> <tr> <td>中 近 東</td> <td>55,000 円</td> <td>中 南 米</td> <td>5,000 円</td> </tr> <tr> <td>ア フ リ カ</td> <td>70,000 円</td> <td>ヨ ー ロ ッ パ</td> <td>80,000 円</td> </tr> <tr> <td>オ セ ア ニ ア</td> <td>80,000 円</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> | ア ジ ア | 50,000 円 | 北 米 | 135,000 円 | 中 近 東 | 55,000 円 | 中 南 米 | 5,000 円 | ア フ リ カ | 70,000 円 | ヨ ー ロ ッ パ | 80,000 円 | オ セ ア ニ ア | 80,000 円 | | |
| ア ジ ア | 50,000 円 | 北 米 | 135,000 円 | | | | | | | | | | | | | | |
| 中 近 東 | 55,000 円 | 中 南 米 | 5,000 円 | | | | | | | | | | | | | | |
| ア フ リ カ | 70,000 円 | ヨ ー ロ ッ パ | 80,000 円 | | | | | | | | | | | | | | |
| オ セ ア ニ ア | 80,000 円 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 渡 航 旅 費 | 新東京国際空港と留学先の大学の最寄りの国際空港との間の往復下級航空旅費 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 募 集 時 期 | 1月 | | | | | | | | | | | | | | | | |

外国人留学生のための案内

1. 各種補助等

本学では、外国人留学生に対し次のような補助等を行っています。

(1) 敷金の貸付（私費留学生のみ）

富山県婦翔会留学生住宅敷金貸付要綱

- ① 貸付限度額 …… 一件5万円以内
- ② 貸付利息 …… 無利息
- ③ 返済方法 …… 借受者は、貸付けを受けた日から1年以内に次の分割等の方法により返済してください。
 - ・毎月均等分割返済
 - ・3ヶ月毎分割返済
 - ・全額一括返済
- ④ 申込方法 …… 所属部局の担当係を通じて申込んでください。

(2) 宿舎費補助（国費留学生のみ）

民間のアパート等に入居した場合、家賃（部屋代）に対して財日本国際教育協会から月額9,000円を限度として補助されます。

(3) 礼金の補助（国費留学生、外国政府派遣留学生のみ）

民間のアパート等に入居する際、契約時に礼金が必要な場合は、5万円を限度として財日本国際教育協会から補助が受けられます。

(4) 国民健康保険

留学生は、国民健康保険に全員加入しなければなりません。

国民健康保険に加入することにより、治療費は3割の負担で済むため、病気や入院等をした時は、大変有利となります。加入の手続きは、居住地の市役所等の窓口で行うことができます。

(5) 医療費補助

留学生が病気やけが等により、病院で治療を受けた場合その治療費の一部を財日本国際教育協会が補助します。この補助と国民健康保険の制度とを併用すると、医療費はわずか6%の負担で済みます。

2. 留学生指導相談室

本学の外国人留学生数は、平成5年2月1日現在131人となり、引き続き増加する見込みです。

本学では、外国人留学生の受入れに当たり、留学生に対する日本語教育及び修学・生活・異文化適応上の指導等並びにこれに必要な調査・研究を行うことを目的として、本年1月22日の評議会において「外国人留学生指導相談室」の設置が承認されました。

指導相談室の体制づくりは、4月以降から順次整備を図っていくこととしていますので、当分の間はご不便をお掛けすると思っておりますがご承知願います。

なお、4月以降の業務計画としては、

- ① 日本語の課外補講の実施
- ② 交流行事の案内及び申込み
- ③ ニュース（季刊）の発行
- ④ その他

上記の他の業務は、指導相談室が整備されるたびに順次拡大を図っていきたいと考えています。

当指導相談室が留学生及び本学の教職員・学生の皆さんに有効に利活用されることを希望いたします。

☆ 相談室の設置場所及び開室日時（予定）

1. 設置場所

人文・社会系共通教育棟1階（旧教養部教務・学生係室）

2. 開室日時（月曜日～金曜日）

4月1日（木）から

休日・祝日を除き

午前9時から午後5時まで

外国人留学生受入状況

外国人留学生受入状況

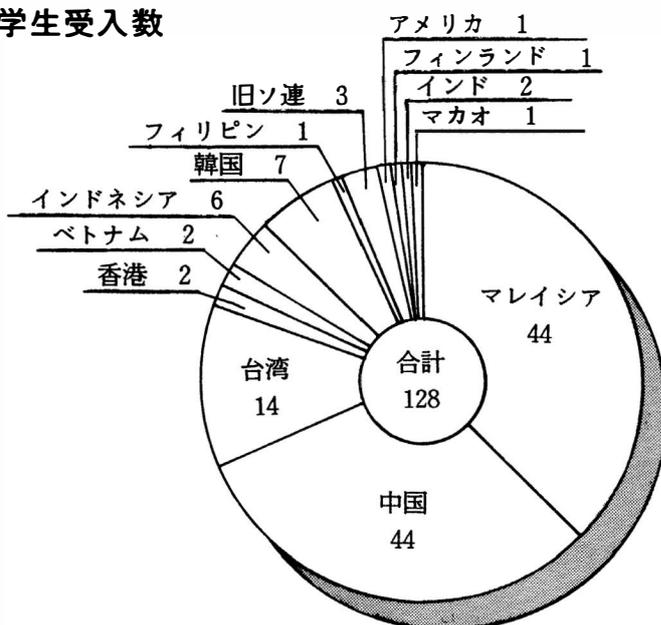
1993. 1. 1 現在

| 区 分 | 国 費 | | 私 費 | | 合 計 | |
|---------|-------|------|--------|------|---------|------|
| | 正 規 生 | 非正規生 | 正 規 生 | 非正規生 | 正 規 生 | 非正規生 |
| 人 文 学 部 | | 2 | 4(1) | 2 | 4(1) | 4 |
| 教 育 学 部 | | 1 | | | | 1 |
| 経 済 学 部 | 1 | 1 | 44(14) | 10 | 45(14) | 11 |
| 理 学 部 | | | | | | |
| 工 学 部 | | | 34(15) | 6 | 34(15) | 6 |
| 教 養 部 | | 1 | | | | 1 |
| 小 計 | 1 | 5 | 82(30) | 18 | 83(30) | 23 |
| 人文科学研究科 | | 1 | 2 | | 2 | 1 |
| 経済科学研究科 | 1 | | 3 | | 4 | |
| 理学研究科 | 3 | 1 | 1 | | 4 | 1 |
| 工学研究科 | 2 | 1 | 5 | 2 | 7 | 3 |
| 小 計 | 6 | 3 | 11 | 2 | 17 | 5 |
| 合 計 | 7 | 8 | 93(30) | 20 | 100(30) | 28 |

注 ()内は教養部在籍者数で内数である。

国別外国人留学生受入数

平成4年5月1日現在



厚生関係の諸手続案内

学生生活を行う上での願出、届、諸証明など必要な手続としては、大きく分けると、身分異動、授業関係、諸証明、課外活動、学生生活、授業料、奨学金など8つの項目について簡単にお知らせします。

これらの必要な手続を怠ると、事務上に支障を来すばかりでなく、学生本人にとっても思わぬ不利益や修学上の支障を来すこともありますので、

十分に注意してください。

なお、授業関係については、履修のしおりを熟読してください。

また、課外活動について、学部単位の団体は学部学務係（学生係）（以下「各学部の窓口」という）、全学的な団体は学生課学生係が窓口となっています。

1

日本育英会奨学金

- 次に該当する者は、至急、各学部の窓口それぞれの届け出を行ってください。

高校又は大学等において日本育英会奨学生であった者。

届書：在学届

高等学校において日本育英会第一種奨学生採用候補者として決定している者。

届書：進学届

- 奨学生の募集について

出願資格 **第一種奨学金** 人物・学業ともに優れ、経済的理由により著しく修学困難な者。

第二種奨学金 人物・学業ともに優れ経済的理由により修学困難な者。

併用貸与 人物・学業ともに優れ、第一種奨学金の貸与を受けることによってなお、その修学を維持することが困難であるとみとめられる者。

種類 **第一種奨学金** 無利子である。また奨学金返還特別免除制度がある。

第二種奨学金 卒業後の返還金に年3%の利子がつく。

貸与月額 自宅通学者 35,000円
自宅外通学者 41,000円
(第一種, 第二種とも同額)

| | | |
|------|--------|------|
| 募集時期 | 学部1年1次 | 4月中頃 |
| | 学部2年以上 | |
| | 大学院 | |
| | 学部1年2次 | 9月中頃 |

上表のとおり、願書の配布・説明会等を行いますが、詳しい日程については、各学部の掲示板でお知らせします。

2

地方公共団体及び

民間育英団体の奨学制度

日本育英会のほかに地方公共団体・民間育英団体の奨学制度があります。

大学を通して募集を行う育英団体については各各部の窓口の掲示板でお知らせしますが、大学を通さないものもありますので、希望者は、出身地の教育委員会、市町村役場等へ問い合わせてください。

なお、募集時期のほとんどは4～5月頃に集中していますので留意してください。(次頁参照)

3

学生旅客運賃割引証（学割）

学割は、JR会社線の片道の営業キロが100kmを超える区間を、正課教育、課外活動、帰省等を目的として旅行しようとするときに交付を受けることができます。

交付枚数 1人年間約10枚

有効期間 交付の日から3か月

割引 普通運賃が2割引

申込受付 入学式の日から受け付け、発行は原則として申し込みの翌日以降になります。

申込先 各学部の窓口。

4

通学定期乗車券（通学定期）

通学定期は、通学のため市内バスやJR会社線等の同一区間を乗車する場合、各学部の窓口で通学証明書の交付を受けることにより購入できます。

申込受付及び申込先は、前記の学割申込みと同じです。

各種奨学団体の内容について（主なもの）

| 設置者 | 団体名 | 種別 | 月 額 | 出 願 資 格 | 募集方法 |
|------------------------|------------|----|-------------------------------|------------------------------|-----------------------|
| 地方 公 共 団 体 | 富山県奨学資金 | 貸与 | 32,000円 | 富山県に居住する者の子弟 | 各学部で募集 (出願は出身高校経由) |
| | 石川県育英資金 | 〃 | 32,000円 | 石川県に3年以上居住する者の子弟 | 各学部で募集 |
| | 福井県奨学育英資金 | 〃 | 28,000円 | 福井県に居住する者の子弟 | 〃 |
| | 富山市奨学金 | 〃 | 22,000円 | 富山市に居住する者の子弟 | 直接当該団体に申し込む |
| | 富山県上市町奨学金 | 給与 | 5,000円 | 上市町に居住する者の子弟 | 〃 |
| | 富山県宇奈月町奨学金 | 貸与 | 10,000円 | 宇奈月町に居住する者の子弟 | 〃 |
| 民間 育 英 団 体 | 吉田育英会 | 〃 | (自宅) 41,000円 (自宅外) 51,000円 | | 各学部で募集 |
| | 交通遺児育英会 | 〃 | (一般) 40,000円 (特別) 50,000円 | 道路における交通事故が原因で死亡した者の子弟 | 〃 |
| | 三谷育英会 | 給与 | 33,000円 | 石川、福井、富山県出身者 | 〃 |
| | 富山第一銀行奨学金 | 貸与 | (自宅) 26,000円 (自宅外) 31,000円 | 富山、新潟、石川、岐阜県の富山第一銀行店舗所在地の出身者 | 〃 |
| | 賞 給 奨 学 金 | | (大学院) 40,000円 | 工学系の大学院生 | 工学部で募集 |

※ このほかにも、各種の奨学金がありますので、詳細は厚生課奨学係又は、各学部の窓口へ問い合せてください。

5 アルバイト・家庭教師のあっ旋

経済的理由等でアルバイトを必要とする学生に対してアルバイト及び家庭教師をあっ旋しています。（新入生については、入学後1カ月間はあっ旋を行っていません。）

詳細については、学生部入り口の掲示板に掲示してあります。不明な点については、学生部厚生課奨学係まで問い合わせてください。

6 アパート・下宿・間借りのあっ旋

大学周辺のアパート等の提供者を登録しておりますので、1年を通じてあっ旋を受けられます。

希望者は、学生部厚生課厚生寮務係まで問い合わせてください。

7 富山大学学生健康保険

本学には、富山大学学生健康保険組合があり入学手続きの際に組合費（1年分1,200円。従って、学部学生の場合は4,800円。）を納めて組合に加入しています。

この保険は、病気やケガ（歯科を除く。）の場合の治療に要する経済的負担を、相互に救済するものです。

（注意事項）

- ① 治療は、必ず社会保険（国民健康保険、職域保険、国又は地方公務員共済、船員保険など。）による診療とします。
- ② 1人当たりの年間総給付額は、55,000円までです。

8 学生教育研究災害傷害保険

この保険は、大学生が教育研究中に受けた災害・傷害に対して救済する全国的な制度であり、本学学生は入学手続きの際に保険料を納め加入しています。

この保険は、次のような状況下で生じたケガについて、入院日数や通院回数により保険金が給付されるものです。

- ① 講義や実験・実習中。また指導教官の指示により授業の準備や後始末を行っている間。図書館や資料室などでの学習中。
- ② 大学の主催する行事に参加している間。
- ③ ①②以外で大学の教育施設内にいる間。
- ④ 大学施設以外での課外活動の間（大学に届け出た活動に限る。なお危険の伴う山岳登はんやハングラライダーなどの活動は除く。）

不明な点は、学生部厚生課保健係又は各学部の窓口にお問い合わせください。

学生部だより

今回は学生部からのお願いや知ってもらいたい事をいくつかまとめてみました。

◎ 学生証

本学学生の身分を証明するものであるとともに、通学定期乗車券の購入（JR・バス等）及び附属図書館利用の証明を兼ねています。

万一、汚損又は紛失したときは、再交付をお願いしてください。

学生証は、4年間使用するの、大切にしてください。

◎ 呼出し

学生への連絡は、すべて掲示で行うので、毎日必ず掲示板を見るように心掛けてください。

（設置場所は、各学部の学務係（学生係）で確認しておくこと。）

※見落としや不注意などのために不利益を被らないように！

◎ 住所変更

下宿先・家族の住所が変更したときは、窓口へ必ず届け出てください。

（大学からの緊急連絡等に支障を来します。）

◎ 遺失・拾得物

学内で物品を遺失又は拾得したときは、学生課学生係又は各学部学務係（学生係）へ届け出てください。

拾得物の届け出があったときは、学生課学生係又は各学部学務係（学生係）で保管しています。

◎ 授業料納付

大学が発行した「納入告知書」に授業料を添えて下記により納付してください。

・納付期限

前期分 4月末日

後期分 10月末日

・納入場所

銀行又は信用金庫等

◎ 課外活動

本学には、文化系41団体、体育系42団体のサークル活動団体があり、学生相互の研鑽の場となっています。

課外活動の発表の場としては、大きな行事として、北陸地区国立大学体育大会（6月～7月）、管弦楽はじめ10部門で実施される北陸三県大学学生交歓芸術祭があります。その他各クラブごとに試合や発表会等があり、学生生活を十分に楽しむ場となっています。

◎ 学生会館

学生相互及び教職員と学生との親睦を深め、学生生活をより充実したものにするため学生会館があります。中には、大集会室、学生ホール（喫茶室を併設）、集会室、娯楽室、音楽鑑賞室、和室等があり、休憩や懇談の場となっています。

◎ 附属図書館

日頃の教育・研究や卒論等の資料提供の場として積極的に利用されています。学生証を持参し利用証の交付を受ければ、簡単な手続きで借りることができます。

なお、蔵書は和洋書併せて約75万冊。ラフカディオ・ハーンの蔵書を集めた「ヘルン文庫」もあり、県外からの見学者も多い。

・開館時間 平日 8:30～20:30

土曜日 12:30～16:15

・休館日 日曜日、国民の祝日、年末年始、

本学創立記念日（5月31日）

保健管理センターのご案内

はじめに

新入生の皆さん、大学生活は、勉学の面でも人間関係の面でもこれまでとは大きく変わります。だから人にいえないようないろいろな悩みもでてきます。保健管理センターはあくまでも諸君のプライバシーを護りながら、精神的および肉体的な問題についての相談相手になるために設けられており、そのための専門家もおります。何でも一人で悩まず、気軽にやって来て利用して下さい。
(富山大学保健管理センター所長)

保健管理センターの主な業務

【学生相談】

◎身体的な健康相談

身体の健康についてどんなことでも、相談に応じます。身体の異常について気になるとき、自分ばかりでなく友人の場合の相談にも随時応じます。

◎精神衛生相談

精神的な健康に関する相談にも応じます。センター内には相談室が設置されており、心理面ばかりでなく、修学、進路、生活など種々の相談に応じています。

◎精神医学

心理学的分野での研究あるいは勉学について希望があれば指導、援助をします。

◎電話相談

センターへ来所出来ない場合は次の電話でも相談に応じます。

電話番号 A相談室 0764-44-2802

(おもに精神的な悩みについて)

B相談室 0764-32-5494

(おもに修学上の問題について)

相談時間

| | | |
|------------------|-------------|----------------------|
| 月曜日 から 金曜日 | 午前10時～午前12時 | A相談室は月曜日 利用出来ません。 |
| | 午後1時～午後4時 | |

なお、授業やその他の都合により留守で応答しない場合は、センター事務室へ電話(0764-41-1271 内線2251)して、相談出来る時刻を確かめてください。

【健康診断】

- ◎ 健康診断は病気の早期発見、健康の保持・増進のための援助を目的とするもので、センターでは年に1回、全学生に対して定期的に行っています。この定期健康診断は、進学・就職試験や奨学金出願等の健康診断書作成の基礎にもなりますので必ず受診してください。
- ◎ 臨時健康診断はサークルの対外活動又は学外実習等に際して、要望があれば随時行います。臨時健康診断を受けたい場合は、直接センターへ申し込んでください。

【救急処置】

- ◎ ケガや病気になった場合の応急処置等は随時行っています。
- ◎ 気分の悪い時などには休養もできます。

【その他】

- ◎ 健康診断書の作成
- ◎ 学生健康保険の取扱い窓口

そ の 他

【レクリエーション・セラピー室の開放】

センターの一室をレク・セラピー室として皆さんに開放しています。

レク・セラピー室は、仕事や勉強の余暇を利用して、いろいろの器具を使用したり、ゲームをしながら、あるいは語り合いながら精神的・肉体的に新しいエネルギーを盛りかえす、あるいは(再)発見するための部屋です。

- ◎ 室内には、体力測定器具(トレッドミル、エルゴメータ、エアロバイク、バーベル等)ぶ

らさがり器そして囲碁，将棋，オセロ，トランプなどの遊具，ビデオテープレコーダーなどが備えてあります。

- ゲームや語らいを通して人と人との輪を広めていく場ですので一人で，あるいは友人を誘って気軽にご利用ください。
- 使用時間（月曜日～金曜日）
午前9時～午後4時30分

【保健管理センター職員】

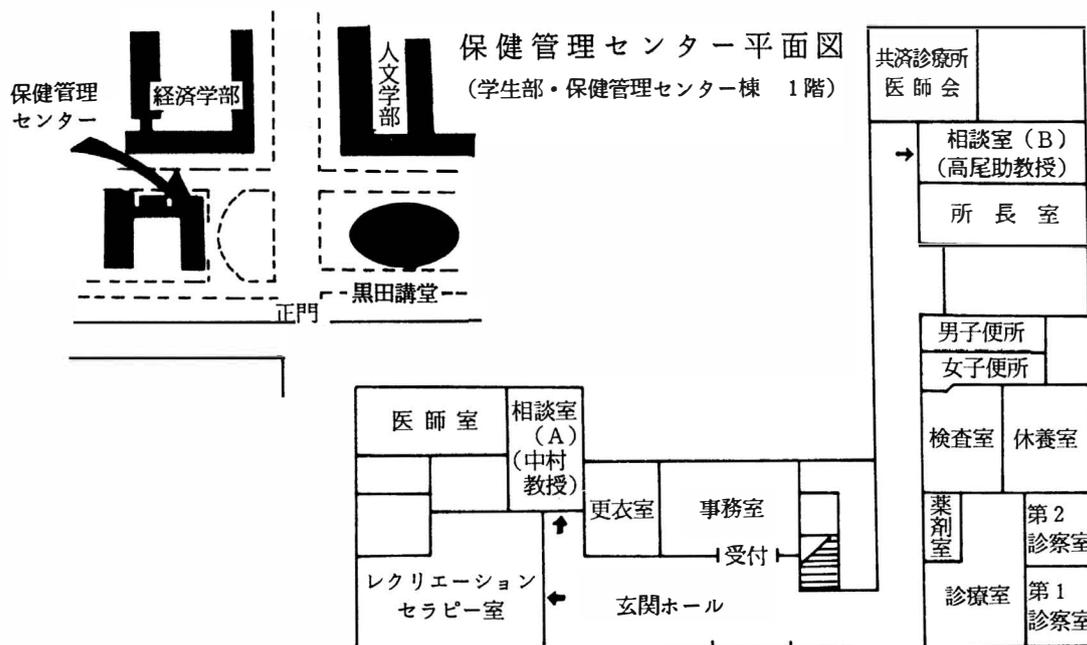
| | |
|-------------|--------|
| 所長（併任） | 鱒澤 晃 三 |
| 教授（神経精神医学） | 中村 剛 |
| 助教授（カウンセラー） | 高尾 テルノ |
| 看護婦 | 山端 憲子 |
| 〃 | 松井 純子 |

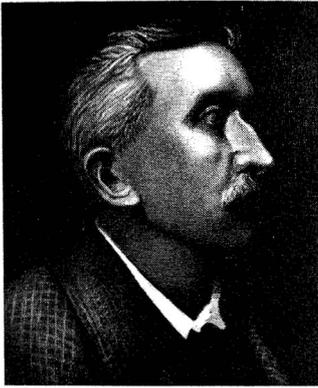
その他，非常勤の学生相談員，学校医がおりますので，気軽に来談してください。

保健管理センターの年間主要行事

| 月 | 主要業務 | 月 | 主要業務 |
|----|--|-----|---|
| 4月 | <ul style="list-style-type: none"> ・新入生健康診断 ・在学生健康診断 ・新入生健康状況アンケート | 7月 | <ul style="list-style-type: none"> ・内科の精検を要する者の健康診断(※) ・臨時検診（水泳実習参加者） |
| 5月 | <ul style="list-style-type: none"> ・在学生健康診断 ・全学生胸部X線間接撮影 | 11月 | <ul style="list-style-type: none"> ・健康の集い |
| 6月 | <ul style="list-style-type: none"> ・全学生胸部X線間接撮影 ・胸部X線直接撮影（精検を要する者） ・眼科・耳鼻科の精検を要する者の健康診断(※) ・放射線装置に携わる学生の特別健康診断 ・健康の集い | 12月 | <ul style="list-style-type: none"> ・臨時検診（スキー講習参加者） |
| | | 1月 | <ul style="list-style-type: none"> ・臨時検診（寒中水泳参加者） |
| | | 2月 | <ul style="list-style-type: none"> ・臨時検診（スキー講習参加者） ・健康の集い |

(※) 印は希望者も含む





「へるん文庫」縁起 3

(アメリカへ)

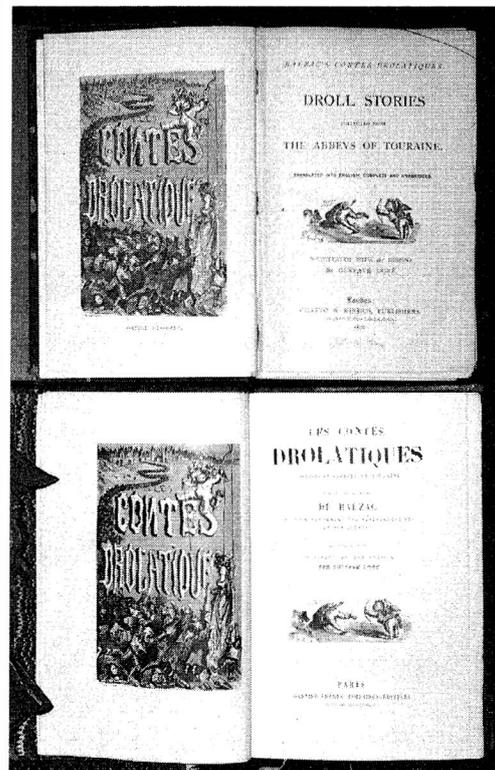
人文学部教授 ^{ひら}平 ^た田 ^{あつし}純

前に述べた通り、ハーンは庇護者を失って1869年、19才でアメリカに渡った。まずはオハイオ州のシンシナティで使い走りから郵便配達、鏡の行商、その他色々の雑用に雇われて、手から口の生活を送っていたが、ヘンリー・ワトキンという印刷屋に知己を見いだして、精神的にも物質的にも初めて、居るべきところを見いだした。ハーンは物質的窮乏状態にあっても、図書館等を訪れて、飽くことなく読書にいそしみ、また文を綴っていた。シンシナティ・インクウィアラ社に原稿を売り込みにいったことが縁で、同社の記者として探訪記事を手掛け、三面記事担当として売らした(殺人死体焼却事件のなまなましい描写でセンセーションを巻き起こしたことは有名である)。さらにコマーシャル社に転じ、哲学、宗教から文学に至るまで、広い範囲を扱った記事をもっている。その源となったのは、ハーンが衣食を節し、乏しい金をはたいて買い求めた本であり、また文学、音楽等を仲立ちとして出来た友人との交わりであった。彼の興味は奇異なもの、東洋のもの、ヨーロッパ大陸のものに向けられていた。ティオフィェル・ゴーティエの怪奇物語を訳し始めたのも、この頃であった。

恋した女性との結婚がオハイオの州律で禁じられたこと(これは間もなく廃された)などもあって、1877年11月、彼はミシシッピ河を下ってニュー・オーリンズに移り、ディリー・アイテム社に入って、社説を初め、随筆、翻訳に筆をふるった。1881年末にはタイムズ・デモクラット社に迎えられ、文芸部長として活躍した。彼はこの土地で10年を過ごすことになるのだが、物価もごく安く、余裕の出来ただけ、古本屋を回り、時間をかけて探すことを楽しんでいった。(1882年には蔵書が300冊を越えたといっている。) とくにキャナ

ル通りにあった古本屋の「アーモンド・ホーキンズ」には、よく通っていた。彼の関心は依然として仏教、ギリシャとアラビアの風俗習慣、クリオール伝説などにあったようである。

彼が購入した全てが「へるん文庫」に残っているわけではない。それは、後に彼が仏領インドシナに渡ったとき蔵書を託した先から、全てが戻されなかったためである。しかし、当時の彼の蔵書は、Lafcadio Hearnというゴム印がおしてあるか否かで、一応判断される。ちなみに高田力、平岡伴一編「カタログ」ではそれには★が付されている。(ニュー・オーリンズのチュレーン大学のハーン・コレクションが所蔵するロセッティの詩



同じ本であるが、上が英語、下がフランス語で書かれている。

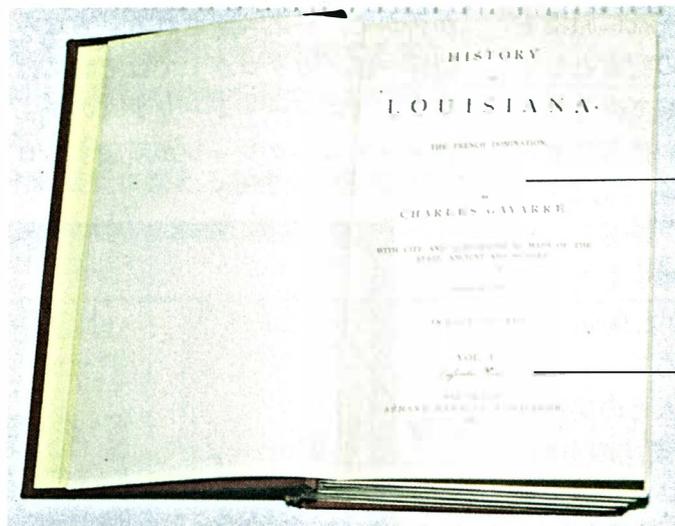
詩集の扉に同じゴム印が押されていたのを筆者は確かめている。）

まず、英語で書かれた書物は1352冊あるが、その中で★印の付いたものは192冊（上記『カタログ』による。以下同じ）である。英文学関係では『ベオウルフ』からイエーツの『葦間の風』にいたるまで主だったものが260冊収められているが、テニソンの作品が18冊あるのが目につく。この260冊中の★印23冊には、サー・エドウィン・アーノルドの『アジアの光』『信仰の真珠』の他、ブラウニング、バイロン、ロセッティ、テニソンなどの詩がある。アメリカ文学関係38冊中では、エマソン12冊とポー6冊が目だが、★は僅か4点でロングフェロウとB・ハートの詩などである。ギリシャ・ラテンの古典文学としてはイースキラス、ヘロドトス、ホーマー、オヴィド、ヴェルギリウスなどの他にルクレティウスの『物の本性』を含め20冊に過ぎないが、★は12点を占めている。ま

た、ヨーロッパ文学関係の45冊には、ダンテの『神曲』，ゲーテの『詩と真実』（ほか15冊），メーテルリンク、イプセンのドラマ、北欧の詩・物語などが含まれているが、★は9点である。

301冊を数える詩華集，文学史，文学批評関係には，バラッドに関するベルの作品とチャイルドの4巻もの，ロングフェロウの『土地の歌』31巻旧約聖書物語に始まる全99巻，補遺12巻の『リヴァーサイド文学シリーズ』（第35巻欠），テーヌやセンツベリの文学史などが入っているが，★は11点を数えるに過ぎない。

文学関係664冊中★は55点あるが，ギリシャ・ラテンとヨーロッパ関係53点中★印17を引けば611点で★は38でしかない。来日前に英米文学を読まなかったというのではなく，大学で講義をする必要から改めて買い求めたものが多いことを物語っている。



「へるん」の印

「Lafcadio Hearn」のゴム印

ゴム印と印の両方が押されている数少ない本

▽▲▽▲▽ 学園ニュース編集委員 ▼▲▽▲▽

| | |
|------|----------|
| 学生部長 | 増田信彦 |
| 人文学部 | 中村雅之 |
| 〃 | 岩井瑞枝 |
| 教育学部 | 呉羽長 |
| 〃 | 原田嘉昭 |
| 経済学部 | 伊藤格夫 |
| 〃 | 長谷川隆（顧問） |

| | |
|-----|----------|
| 理学部 | 広岡公夫 |
| 〃 | 鳴橋直弘 |
| 工学部 | 女川博義 |
| 〃 | 長谷川淳（顧問） |
| 教養部 | 高安和子 |
| 〃 | 山本孝一 |